

1) わが国の慢性透析療法の要約

日本透析医学会は1968年から年に一回全国の透析療法施設を対象に統計調査を行っています。2006年末の統計調査は全国の4,051施設を対象に実施され、3,985施設から回答が寄せられました。回収率はシートIのみでは98.4%、全体では94.0%になります。これらの調査結果を集計した2006年末のわが国の透析療法の現況を報告します。

(1) わが国の慢性透析療法の要約 (図表1)

施設数		3,985施設	(45施設増)	1.1%増
設備	パーシェントステーション	104,382台	(3,830台増)	3.8%増
能力	同時透析	103,573人	(3,690人増)	3.7%増
	最大収容能力	350,943人	(11,528人増)	3.4%増

慢性透析患者	264,473人	(6,708人増)	2.6%増
--------	----------	-----------	-------

※慢性透析患者の総数は、シート1患者総数欄の合計であり、治療方法別患者数の合計とは必ずしも一致しない。

昼間	213,454人	(80.7%)
夜間	41,641人	(15.7%)
在宅血液	147人	(0.1%)
CAPD	9,003人	(3.4%)
IPD	220人	(0.1%)

導入患者数	36,373人	(310人増)	0.9%増
死亡患者数	24,034人	(51人増)	0.2%増

	男	女	不詳	計
5年未満透析患者数	79,246	45,271	59	124,576 (49.8%)
5年以上10年未満透析患者数	37,735	24,378	4	62,117 (24.9%)
10年以上15年未満透析患者数	17,662	12,653	3	30,318 (12.1%)
15年以上20年未満透析患者数	8,496	6,923	0	15,419 (6.2%)
20年以上25年未満透析患者数	5,042	4,210	0	9,252 (3.7%)
25年以上透析患者数	4,707	3,568	0	8,275 (3.3%)

※透析歴別患者数は調査シートII～IVの記入から算出

人口100万対比	2,069.9人 (52.3人増)
----------	-------------------

最長透析歴	39年0ヵ月
-------	--------

解説

わが国の慢性透析療法の現況

今回の調査により回答施設は3,985施設となり、前年度より45施設(1.1%)増加し、設備・能力もそれに伴って増加している。患者数の増加に対処するための必然的な結果である。

パーシェントステーションは104,382台であり、3,830台の増加であった。2005年と比較すると、パーシェントステーション増加の割合の方が施設数増加よりも多い傾向であった。一施設あたりの規模拡大を反映した結果であり、同時透析可能人数は10万人を超え、最大収容能力は35万人相当となった。

昼間透析の割合は80.7%に増加したのに対し、夜間透析の割合は15.7%に低下した。

最長透析歴は39年であった。